

## 〈実践報告〉

# ライティングコースにおけるブログライティングの効果

ヴァルヴォーナ（末吉）綾乃

## 要 約

本稿は英語のライティングの授業の取り組みとして日本の大学で行われたブログライティングについての報告である。授業では英語の essay（小論文に値する）ライティングの書き方を教授するコース運びの中、プロジェクトとして学生が自分で選んだトピックについて書き、インターネットに掲載するブログのライティングに取り組んだものを紹介するものである。学期末のアンケートの結果、ほとんどの学生がブログ形式のライティングに対して好意的な意見を持っていることがわかり、また英語学習のモチベーションの向上にもつながるような回答が得られた。それはブログライティングを使った指導が学習者にとって有益であるという他の研究の結果とも一致するものとなった。

キーワード：英語ライティング、ブログ、プロジェクト、アウトプット、モチベーション

## はじめに

### 1. 第二言語のライティングコースの課題

中学・高校で行われる日本の第二言語教育となる、英語で自己の意見を述べるという練習の機会、ほかの国の第二言語教育に比べると決して多いほうではない。それが大学に入学し、急に「英語で自分の意見を述べなさい」と言われても困惑する学生を多々目にしてきた。これまで、Communicative Approach の一環でコミュニケーションのツールとしての語学教育が推奨されているが、アウトプット中心のカリキュラムを日本の中学・高校で行うのは未だ難しそうと思われる。

このような学生たちが受けてきた教育に反し、大学では英語で自分の意見を述べるような小論文に値する essay ライティングのコースが主流となりつつある。第二言語のライティングのコースにおいては、ライティングの過程、書く作品の質の向上、誰のために・何のために書くのか目的を意識させて教えることが大事とされているが (Weigle, 2014)、語学コースの中では特にこの書く目的を学生に持たせることを忘れがちである。そのことから学生のモチベーションの低下やコミュニケーションの一部であるライティングという意識を喪失させる可能性もある (Weigle, 2014)。そこで、学生の書く意欲を促しより良いものを、段階を経て書くように様々なテーマの essay が課されたが、その中でもブログスタイルライティングについて紹介したい。

## 2. ブログライティングと語学教育

ブログとは、インターネットに個人的な意見、趣味、ライフスタイルを共有するオンライン上の場所として、情報共有にとどまらず、ビジネスにも連結することができるプラットフォームとして利用され、いわゆるデジタル・ネイティブとされる今の大学生が、一度は目にしたことがあるフォーマットだと思われる。他のサイトやホームページと違い、ブログは著者主体の意見や見解が色濃く反映されることもあり essay writing で身に着けるべきスキル「自分の意見をはっきり論じる」という理念に沿ったものであることから、今回課題として導入した。

これまでも外国語教授の研究でブログを活用した語学教育は有効であるという研究されており (Harwood, 2010; Ohashi, 2012)、自主的学習意欲 (learner autonomy) や学習者のモチベーションの向上 (Dickinson, 2010; Bhattacharya & Chauhan, 2010) 他、学習体験の反省を促す (Bhattacharya & Chauhan, 2010) ものである。さらにブログは学習者がより「著者」として書くことを意識させ、学生中心のアクティブな学びを促すとしている (Blessinger & Wankel, 2012)。またブログは読み手 (audience) を意識することから、コミュニケーションツールとしてよりリアル (authentic) な言語使用を促し (Mishan, 2004)、学習者本人が内容、レイアウト、視覚的情報、文法などにより意識しながら作成し、達成感も得られると報告されている (Bhattacharya & Chauhan, 2010)。ライティングコースをより効果的にするとされるよりリアルなタスク設定、読者ありきの執筆、プロセスを踏んで学びを促す (Weigle, 2014; Benegas et al., 2019) のに、ブログは効果的と判断する。ログ (記録) を共有するという視点からは、異なる文化を学生が共有する場所として交流を促し、異なった文化背景を持つ英語学習者がコミュニケーションをとるツールとしても有益とされている (Hubert, 2020)。

## 研究方法

### 1. 該当コース受講者

2020年度「英語表現法II」に登録していた学生26人中、学期末のアンケート実施の日にアンケート回答をした22人のデータを扱った。本科目は国際コミュニケーション学科の英語コースの選択必修科目であり、特に教職課程の必修科目である。受講生の内訳は2年次が13人、3年次が11人、4年次が2人であった。

### 2. コースの概要

英語表現法は英語で「Advanced English Writing」と表記され、英語のライティングを扱うコースの中でも最終科目の位置にあたる。このコースの達成目標は、「学習者が英語で自己の意見を英語で表現する」、「ライティングに必要な情報を英語で集め、ライティングに生かす」、「添削、編集を行う」、「ステップを経て論理的なライティングを書く」、「クリティカルシンキングのスキルを付け、ライティングに反映する」としている。この essay writing の目標を達成するため、プロセスライティング (段階を経て作品を書いていく手法) が採用され、授業内では教材・見本の essay を読み、文法復習、ブレインストームアクティビティーなどを通しアイデアを精査し、ライティングに生かす取り組みを実施した。

表1は「英語表現法II」の中で実際に受講生が執筆したエッセイライティングのトピックである。受講者はここで英語のエッセイの記述スタイルを授業中に学び、授業内もしくは宿題として書き終え提出した。講師の添削やフィードバックを受け、手直しをして再提出を行うなどし、自

己のライティングスキルの向上を図った。1回目の提出ではfirst draft（初稿又は下書き）として扱い、主に「自己の意見ははっきり述べられているか」、「具体例などの内容が十分か」、「構成はエッセイの書き方に沿っているか」、「文法や表現は正しいか」などで評価され、評価を行うが、Second Draftで改善があれば、評価も訂正するという工程で指導を行い、書き直しを奨励した。

表1 「英語表現法Ⅱ」で取り上げたライティングのトピック

Orientation: Introducing classmate (パートナーの紹介文)
Descriptive essay (描写：絵画を説明)
Recipe writing (命令形でレシピ作成)
Opinion essay (意見を述べる)
Blog writing (ブログライティング)
Comparison and contrast (比較・対比)
Problem solving (問題解決)
Persuasive (説得)
Timed-essay writing (英検ライティング)

### 3. ブログライティング実施

ブログを書く課題は、まず授業中に実際に映画化され有名になったブログを読むことから始め、その後英語で評判のあるブログをそのスタイルやトピック別に紹介した。また、日本に住む外国人目線で日本の面白いところ紹介・記録したブログを読ませ、その理解度をチェックするなどして、いわゆるプロブラガーのブログにも触れた。次に、書き方の参考として「5 Tips for Writing an Awesome Blog Post」をYouTubeで視聴させた。受講者には自分独自のブログを作成することを念頭に、2つのスタイル:「日記スタイル」(日記や旅行行程など時間を沿って紹介)又は「コンテンツ紹介スタイル」(文化、趣味、その他の情報を発信する)のどちらかを、自分が紹介できる内容に合わせて選ぶように指示した。実際に書き始める前に、講師によるサンプルブログを2種紹介し、参考にするように指導した。

ウェブ上の実際のブログは、学習者にとって扱うのが難しいという報告もあり (Dicello, 2014)、インターアクティブであると同時に他人からの悪意のあるコメントが寄せられる可能性があるとして、教員は慎重に扱うべきだとされている (Sokolik, 2014)。そのためこのプロジェクトでは、初・中級語学学習者が躊躇しないように完成したブログはクラスのみで共有するとし、学生はMicrosoft Word上にブログに似せてたフォーマットで作成するよう指導した。使用する写真は必ず英語で説明を加え、フォントや背景の色はブログ内容の世界感を表現する工夫をするように促した。主なルールは3つで、「1. 内容はすべて自分で書いたオリジナルを使う、2. 写真は著作権フリーのものを使いURLを提供する、3. 最低2ページ作成するが、内容は2つ異なるものを1ページずつ作成してもよし」とした。

表2はこの課題の評価内容を記載したものである。受講者は、授業中にペアワークを通して、どのテーマについて書くか話し合い、宿題として書く内容を固め、次の授業中に書き始めた。提出された作品は、講師によるフィードバックが細かく行われ、それを受けて学生は宿題とし自分の作品を編集して、最終版をPDFにし教員にメールで提出した。

提出されたブログのPDFデータは、教員によってすべて Google Classroom にアップされ、クラスでお互いの作品が読める環境にした上で、授業内で Forms を使い Peer Review（学生による作品を評価）を実施した。この Peer Review の結果は別に報告することとする。

表2 ブログの評価項目

カテゴリー	評価内容
Interesting	興味深く、おもしろい、又はためになる内容である
Originality	他では見たことがない。 似たようなトピックであっても、著者のオリジナリティにあふれ、著者の視点や意見がたくさん盛り込んである。
Visual Information	写真や絵などが使われ、分かりやすい。字のフォントや色などに工夫がある。
Expression	ちゃんと内容について文章で説明されている。 英語の表現が上手である。
English and rights	他のサイトから引用した内容ではなく、翻訳サイトも使わない、著者が書いた文章である。 写真やほかのサイトからの情報は、元となるサイトの情報が提供されてある。

#### 4. アンケート質問項目

ブログライティングの取り組みに対する学生の評価と、Peer Review に対する学生の感想を、講師がコース終了時に行う総合アンケートの一環として、アンケート調査を行った。アンケート結果によって得られたデータは学生が特定できないように管理され、またアンケートは成績に反映されないことが説明された。また結果は学会や紀要などに報告される可能性があることが告知された。アンケートの質問の内容は、ブログに関する質問の他に、コースを通しての自己評価や感想、授業運営に関するフィードバックなども行われたが、ブログライティングのみの回答を分析することとする。主に5段階評価（とても良かった～最悪だった）でライティングのトピックについての評価（表1に記載したトピックを複数可で選ぶ）、ブログライティングについての評価（5段階評価）、英語で情報発信したいか（5段階評価）と、自由記述ではブログライティングについての感想が寄せられた。

#### 5. ブログについて学生の評価

アンケートの結果、今学期扱ったライティングのトピックの中で最もブログライティングが「勉強になった」又は「書きやすかった」と答えた学生が22人中18人（81.8%）いたことが分かった。それは、2番目に高い評価である「Introducing classmates」、「Comparison and contrast」、「Problem solving」の36.4%と比較して、大幅に上回る結果となった（図1参照）。

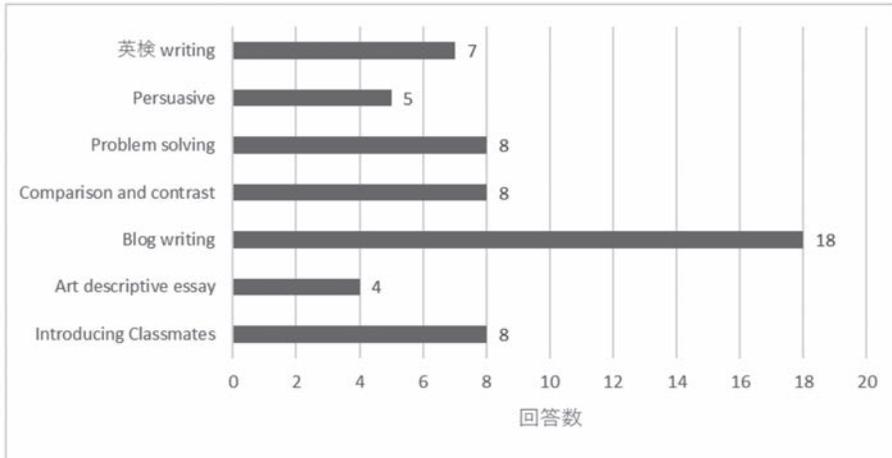


図1 学生のライティングトピックに対する評価 (n=22 ただし回答複数回答可)

ブログを書くことへの学生の評価は66.7%の学生が「とても良かった」と評価し、「良かった」と答えた者も33.3%となり、「どちらとも言えない」という含む中立的または否定的な評価をする学生はいなかった(図2参照)。履修者全員がこのようにブログを英語で書くという課題に好意的な評価をした。数あるトピックやライティング様式の中でも、この課題は学生に高評価であるのは、自分で内容を選べること、使用する英語の文法も簡単な表現や自分が熟知している内容だったため、このような結果が出ているとも推測できる。学生の予備知識が書きやすさを左右することもあるため、一番人気のなかった「Art descriptive essay」に関しては、普段触れることのない絵画などを描写するという課題だったため、このような結果になったと考えられる。「ブログやホームページを使って英語で情報を発信したいか」という問いに対しても、「強くそう思う」と「そう思う」と回答した者が合計63.6%と過半数を上回る結果となり、英語で情報は発信するという行為に対して過半数が好意的な感想を持っていることが分かった(図3参照)。

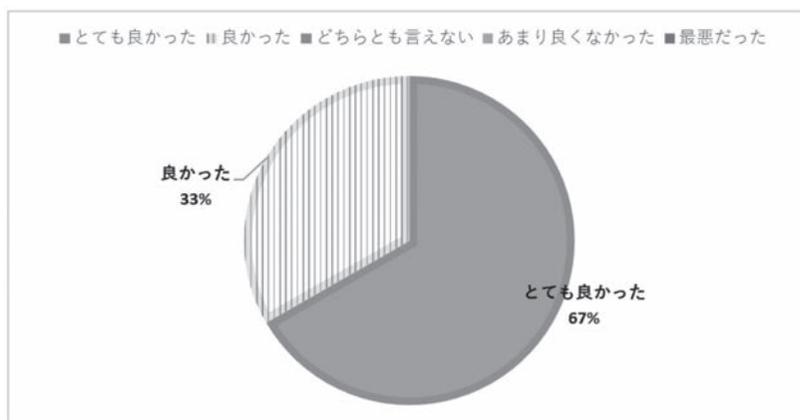


図2 ブログライティングに対する学生の評価

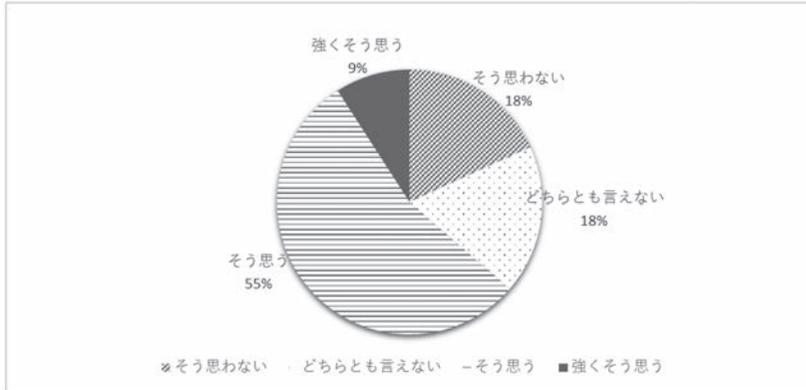


図3 英語で情報を発信することの学生の評価

「ブログライティングについての感想を書いてください」という自由記述に22人中16人の学生が回答した。このコメントを分析すると、ブログライティング課題の内容やアウトラインなどブログ特有のデザインに対し好意的なコメントが17回あり、全体のコメントの約59%を占めた。中でも自主的に多岐なトピックから内容を選べるということから、自分が書きたいことを説明するため「良くかけた」と自己評価する者が最も多く(6)、その次に「楽しかった」とこの課題に対する好意的な報告が次に多く(4)、自分で選んだトピックについて書いたので「たくさん書くことが出来た」(2)と自己評価する学生もいた。学生個人の興味が持てることを紹介するという形式ということが高評価に繋がったと言える。他の好意的なコメントには、「好きなデザインが出来た」や「レイアウト考えるのが楽しかった」など制作したブログのデザインに関するコメントも寄せられ、反対に「フォントを大きく読みやすくすればよかった」という反省も見られた。

他には学生のライティングに関する評価や反省事項も述べられた。少数ではあるが「言いたいことが言えた」などの報告(2)や、反対に「もっと細かく書けばよかった」、「もっと読み手に伝わる文が書きたかった」や「難しかった」などの反省を述べる者(3)も見られた。他のコメントには自分でトピックを決め、書く内容を精査するという一連の作業に対し「良い経験になった」と報告をする学生(2)もいた。また「クラスメートの興味が知れた」などと他の学生のブログを読むことが有意義であったという回答(3)もあった。

表3 アンケート自由記述の種類

自由記述の種類	内 容	コメント回数
内容に関すること	好きな内容なので良くかけた	6
	好きな内容なので楽しかった(面白かった)	4
	好きな内容で好きなだけ書けた(たくさん書くことができた)	2
	個性が出たので楽しかった	1
デザインに関すること	レイアウトを考えるのが楽しかった(学べた)	2
	好きなデザインができた	1
	もっとレイアウトに工夫が必要だった	1

ライティング自己評価	言いたいことが書けた	2
ライティング反省	書き方に改善が必要	3
プロセスに対する評価	良い経験が出来た	2
ブログ読むこと	クラスメートの興味などが知れた	3
その他	もっと時間が欲しい 他のプロジェクトもしたい	2

## 考察

アンケートの結果から、ブログライティングを英語ライティングの課題に取り入れることは、有益であると学習者が認識していることが分かった。特に顕著にみられたのが、学生が一番「勉強になった」または「書きやすかった」課題がブログライティングであったこと、またブログライティングが100%の学生が好意的な態度を示したことである。これは、ブログを利用することが学習意欲の向上になった他の研究と一致する (Bhattacharya & Chauhan, 2010; Dickinson, 2010; Harwood, 2010; Ohashi, 2012)。学生がブログをコミュニケーションの方法ととらえ、自分が収集した情報などを共有することに対し好意的な態度を示したと考えられる。このことは「自分のことを書くのは比較的得意なので苦労せずブログに取り組めた」、「自分の得意なことで書くことができ、ネタがたくさんできたのでやりやすかった」などとする学生のコメントからも見受けられる。授業外で英語をこのように意義のある方法で利用したいと思う学生が過半数を超えたことも、意欲を促し、自主的学習意欲を促進させた (Bhattacharya & Chauham, 2012) といえる。自己評価ではあるが「紹介するにはどんな文章がいいかなど書いているうちに分かるようになった」、「言いたいことは書けた」など Ohashi (2012) の研究のように、学生が自身の語学能力に対し前向きな報告することもあった。他には「見返してみるともう少し画像や文字を大きくして読む人、見る人に分かりやすくすればよかったなと思いました」、「読み手にもっと伝わる文章を書ければよかった」など、読み手を意識した反省も寄せられた。読み手を意識することにより、学習者のモチベーションが上がることは報告されており (Benegas et al., 2019) より良いものを書きたいという学習者の願望は読み手を意識することによって増大するものと思われる。

## 結論

本稿で報告した実践では、英語ライティングを受講する学習者が授業の一環としてブログ形式のライティングを行ったところ、受講者は他のライティングよりブログをより効果的で好意的に取り組んだことが分かった。英作文を指導するコースにおいてブログを英語で書くプロジェクトは、広い読者を意識して作成することから有効なトピックだと考える。特に essay などのより長めの文章を学生にアウトプットさせるときは、まず自分が何を伝えたいかを一番に考えるブログの形式に沿って考えることはとても効果的だといえる。様々なブログが存在することから、学生からも身近なライティングであったとも言える。

この実践は短い期間で行われた取り組みであり、その効果については限定的であるため、今後このような取り組みが行われ、検証されることが望まれる。実際に受講生のライティングの質や量の向上につながったかという科学的な調査も必要となるだろう。この授業では疑似ブログ体験であるため、ほかの研究にもあるような本格的なブログのようにウェブ上に作品がアップされ、

世界中の人々とコミュニケーションをとる体験は実現出来なかったが、将来的にはそれも可能であり、実現させる価値はあると思われる。

従来の文法中心ではなく、学生のコミュニカティブなアウトプットを促し、より多くの教員がこのようなプロジェクトベースの指導法で学生に英語で書く喜びを与える機会を増やすことを望む。

#### 参考文献

- Banegas, et al. (2019). Authority and motivation: a writing for publication experience. *ELT Journal*, 74(1), 29-39.
- Blessinger, P. & Wankel, C. (2012). New Directions in higher Education: An Introduction to using Wikis, Blogs, and WebQQuests. (pp. 3-16) In Wankel, C. & Blessinger, P. (Eds.), *Increasing Student Engagement and Retention Using Online Learning Activities*. Emerald Group Publishing Limited.  
doi:10.1108/S2044-9968(2012)000006A006
- Dicello, C. (2014). Students Responses to an International Blog Exchange. 『椛山女学園大学研究論集』 第45号 (人文科学篇) , 17-23
- Dickinson P. (2013). Promoting Learner Autonomy and Language Awareness Through Blogging 『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』 第16号 , 11-19
- Mishan, F. (2004). (1.2.2) *Designing Authenticity into Language Learning Materials*. 1st edn. Intellect Books Ltd. Retrieved from: <https://www.perlego.com/book/572725/designing-authenticity-into-language-learning-materials-pdf>
- Morrow, K., (1977). Authentic Text in ESP. In S. Holden, (Ed.), *English for Specific Purpose*. (pp. 13-15). London: Modern English Publications.
- Sokolik, M (2014). Digital Technology in Language Learning. In Celce-Murcia, M., Brinton, D. M., and Snow, M. A. (Eds.), *Teaching English as a Second or Foreign Language*. (pp. 409 - 421) Boston, MA: National Geographic Learning.
- Ohashi, L. (2012). Boosting English Skills Through Blogging: Does It Work? 『国際経営・文化研究』 Vol. 16 No. 2, 77-83
- Weigle, S. C. (2014). Considerations for Teaching Second language Writing. (pp 222-237). In Celce-Murcia, M., Brinton, D. M., and Snow, M. A. (Eds.), *Teaching English as a Second or Foreign Language*. Boston, MA: National Geographic Learning.

#### 参考資料

- 5 Tips for Writing an Awesome Blog Post  
<https://www.youtube.com/watch?v=ygiAqYJq8No>

#### Perceived Effectiveness of Blog-style Writing in an English Writing Course

This paper is a report on a blog-writing lesson conducted at a Japanese university. As part of a writing course designed to teach English essay composition, students were instructed to write in a blog style on a topic of their own choice and to post their work on the internet. According to a questionnaire given at the end of the semester, most students showed a favorable attitude towards blog-style writing. The results also indicated the project helped boost students' motivation. The feedback of students matches with the findings of other studies that conclude utilizing blog writing in language instruction is beneficial for students.